



第545号

学校だより

6月号

横浜市立東本郷小学校

令和4年5月31日

ひとにやさしくありがとうの心で がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひがほんの子

響き合って育つもの

学校長 堂腰 康博

人との距離を保ちながらの学校生活から、人とのつながりが実感できる学校生活へと少しずつですが東本郷小の日常が戻ってきています。以前と同じようにはできない状況だから、そのぶん創意工夫が必要となり、よく考えられた活動が子どもたちの手によって生み出されています。

5月のある日、6年生児童の企画運営による「1年生入学おめでとう集会」が校庭で行われました。新たな仲間となった1年生を温かく迎え、みんなで楽しめる時間にしたい、そんな願いを実現するために、実行委員を中心に、6年生がともに支え合いながら集会を盛り上げている姿が印象的でした。「1年生に楽しんでもらうことはもちろん、自分たちも楽しめたことがよかった。」「運動能力の差がでないもので、チームで仲良くなれる種目にしてよかった。」等、実行委員の言葉からも充実感や自己有用感を味わっていることが伝わってきました。さらに「これまで大勢の人の前で話す経験はなかったけど、自分の説明が伝わったのが嬉しかったし、やれるんだなという自信ができました。」「1年生から『楽しかった』って言われて良かったから、もっと共通の話ができるようになりたいし、顔を覚えて友だちになれるまで続けていきたい。」という話も聞かせてもらいました。「わたしは～」「ぼくは～」と自分の意見を述べるかたちで、しっかりと質問に答えてくれる6年生の姿は実に清々しく、素敵でした。

これまで東本郷小学校で大切にしてきた異学年での交流活動。最上級生にとっては、学校生活の中で自分の役割と責任を果たす貴重な機会であり、よりよい自分、よりよい生き方に向かう姿勢を育む「学びの場」であったことを改めて感じます。今、求められているのは、こうした自己効力感や自信を培うことであり、自分たちらしい方法で合意形成や、意思決定をしていく機会をきちんと用意する等、学びの環境をつくることなのだと思います。「こんな集会にしたいと考えてみたけど、みんなはどう思う?」「こんなゲーム(種目)をやってみたらどうか考えてきたけど、みんなはどう思う?」友達の意見や考えを受け止め、自分たちでよりよい方法を練り上げ、子ども同士のかかわりを作り出すことを心がけた6年生の担任の姿勢にも「あっぱれ!」の拍手を贈りたいと思います。



一年生とチームになったの「ボール運び」

この度、令和6年3月までの三年間を見通して、東本郷小学校の中期学校経営方針を策定いたしました。わたしたちはコロナ禍とともに、また、ポストコロナを見通して、今と未来を生きる子どもたちに新たな価値や知識を生み出す力を育てていきたいと考えています。学校として大切にすべきことは何かを問い直し、目指す子どもの姿や取組目標を現在進行形の表現で、具体的にまとめてみました。学校ホームページでも公表していますので、ご覧いただければ幸いです。